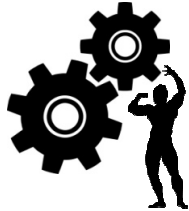


資本主義社会における、4つのマインド

- ・「お金」というものさしで考えた時、大きく4つのフィールドがあり、それぞれに独自のマインドがある。
- ・どのフィールドでも、大きく富を得る人もいれば、そうでない人もいる。
- ・マインドを変化させないまま、別のフィールドで稼ごうとしても、決して稼ぐことはできない。

【タレント（従業員）マインド】

仕組みの一部を「**担当**」する。
会社員やプロスポーツ選手などが該当。
能力×時間に対して支払われる。



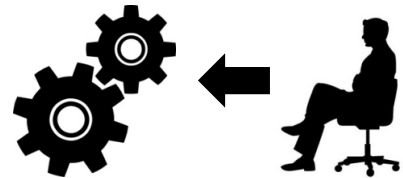
時間あたりいくら（年棒、年収、月収など）
労力対効果（「報酬は一定」という前提がある場合も多い）

- ・需要のある能力を磨くこと。
- ・仕組みから外れないこと。
- ・報酬、肩書き、実績、感情にフォーカス
- ・人の群れの中で一番を目指す

自力

【トレーダーマインド】

既存の仕組みを「**活用**」する。
トレーダーや専門的自営業などが該当。
時間や資金等のリスクに対して支払われる。



振れ幅を利用する
リスク対効果

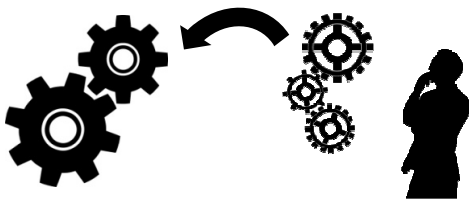
- ・検証、繰り返し。狂信的規律。
- ・資源、ツールの枯渇⇒活動停止
- ・リスクヘッジ、俯瞰、群集心理にフォーカス
- ・人の群れとズれる、外れる、出し抜く。

ズームイン

ズームアウト

【ビジネスマインド】

仕組みを「**構築**」する。
起業家や経営者が該当。
仕組みそのものに対して支払われる。



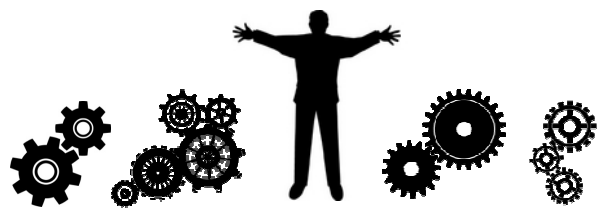
レバレッジ
組合せ対効果

- ・市場のニーズにすばやく適応すること。
- ・仕組みの老朽化、陳腐化を防ぐ。
- ・ビジネスフロー、現在の需要にフォーカス。
- ・人の群れを流れに乗せる。

他力

【オーナーマインド】

仕組みを「**所有**」する。
投資家や権利保有者が該当。
権利に対して支払われる



ROI（Return On Investment）
投下資本対効果

- ・投資効果の高いものを見極める。
- ・権利を保有し、守ること。
- ・契約、法、権利、未来の価値にフォーカス
- ・人の群れの未来を読む。

- ※ 全てのマインドが完全に独立しているわけではなく、相互補完している関係。
- ※ 優劣はないのだが、現時点の日本では、教育上、タレント（従業員）マインドが最も多く、オーナーマインドが最も少ない。
- ※ マインドを変えるためには「強制的環境変化」か「人との出会い」以外には、ほぼ方法はない。
- ※ ここで記載したものは、あくまで「お金のものさし」で見た世界である。